

## 芦別白光舎 令和4年度 事業報告書

### 1. 総括

障害の有無等に制限のない社会事業授産施設として、就職の困難な利用者の受入れに取り組み、その役割を果たすため福祉事務所との連携を強化し、保護世帯利用者の受入れ、またはそれに準ずる生活困窮者、利用障がい者の受入れ、支援に努めてまいりました。

また、基準該当就労支援B型施設としての障がい者の受入れにつきましては、就労希望の利用者を積極的に受入れ対応してまいりました結果、3月末のB型支援利用者は18名となり、事業授産利用者32名と合わせて合計50名が就労しております。

「働く・暮す」の支援の充実については、福祉施策と労働施策の両面にわたり積極的に取り組み、高工賃の支給、個人の能力・体力等に合わせた就労日時を設定し、就労環境を整備してまいりました。

さらに、施設外の生活困窮者への救済事業として、北海道社会福祉協議会と連携し、「安心サポート事業」を継続しており、相談支援、緊急対応、経済的援助等、制度の狭間の方々に対し、地域の相談窓口としての見守り活動を実施しておりますが、令和4年度の相談者についてはいませんでした。

作業の安定化、作業効率の向上については、新型コロナウイルスの影響が徐々に緩和され、特にリネンサプライ事業は回復の兆しがみられ、作業量が増加いたしました。

ユニホームクリーニングについては取引先も安定し、良好な成果を出す事ができております。

サービスの安定提供につきましては、授産事業作業量の確保のため、ユニホーム業務の拡大とリネン作業の拡幅、または洗濯料金の値上げにより、コロナ禍においても安定した工賃支給につなげることが出来ました。また、利用者のニーズに応えるため個別面談を実施し、利用者の安心・安全な生活の実現に向けて、生活支援、家庭訪問等も随時必要に応じて実施いたしました。

新型コロナウイルス感染状況につきましては、12月下旬から感染者が増加し、合計で22人の罹患者となりましたが1月中旬までには収束し、現在は全員無事に復帰しており大事には至りませんでした。

具体的な運営状況については以下のとおりです。

### 2. 施設利用者状況(令和5年3月31日現在)

区 分	定員	利用種別	人数	備 考
事業授産	30人	低所得者	28人	

		保護世帯	4 人	精神科通院中
		うち (知的障がい)	6 人	
		(身体障がい)	1 人	
		(精神疾患)	2 人	
		(ひとり親)	0 人	
		(その他)	23 人	
		合計	32 人	
就労継続 B 型支援 (基準該当)	20 人	(知的障がい)	9 人	
		(身体障がい)	3 人	
		(精神疾患)	5 人	
		(特定疾患)	1 人	
		合計	18 人	
合 計	50 人		50 人	

### 3. 経営状況

授産事業につきましては、新型コロナウイルスの影響も緩和され、リネンサプライ事業の売上は徐々にであります但回復してきました。ユニホーム事業においても、新規顧客増が実現できたため、事業収益は 219,315 千円となり、前年度対比 19,540 千円の増額となりました。福祉サービス等事業収益は利用者増の影響もあり、18,908 千円で前年度対比 1,366 千円の増額となり、合計で 238,223 千円、前年度対比 20,882 千円の増額となりました。

一方、支出においては人件費、燃料費、資材の仕入れによる消耗品費の増加により 214,594 千円となり、前年度対比 14,681 千円の増額となりましたが、収支差額は 23,628 千円で前年度対比 6,200 千円の利益増となりました。

サービス活動外収支を含めた収支差額は 32,415 千円で前期繰越活動増減差額の 115,238 千円をプラスし積立預金を 14,000 千円とした結果、次期繰越活動増減差額は 133,653 千円になりました。

収益事業の収入合計は 62,883 千円で前年度対比 3,688 千円の増額となっておりますが、その内訳は清掃会計で 2,034 千円の増額、病院売店会計で 1,474 千円の増額、市役所売店会計で 180 千円の増額となっております。一方支出においては、58,260 千円で前年度対比 244 千円の増加となっており、費用は抑えられたものと考えております。その結果、本部会計に清掃会計より 3,200 千円と売店会計より 1,300 千円、合計で 4,500 千円を繰り入れております。

結果、授産事業、収益事業、共に概ね運営は順調です。

### 4. 各種事業活動結果

年・月・日	事業活動内容	摘要
	<b>【諸会議の開催】</b>	
随時	理事会の開催(書面会議を含む)	年間 6 回
随時	評議員会の開催(書面会議を含む)	年間 2 回
毎月	職員会議の開催	
毎日	職員ミーティング	
	<b>【監査】</b>	
定期	巡回監査(さくら総合会計事務所)	年間 6 回
	監事監査	年間 4 回
定期	運営指導(芦別市福祉事務所)	年間 1 回
定期	<b>【親睦事業】</b>	
	観桜会	中止
	焼肉会(敷地内)	中止
	ふれあい広場(みやもと公園)	中止
	勤労者共済会クリスマスパーティ	中止
	忘年会	中止
	新年会	中止
	雑煮会	中止
	<b>【健康管理事業】</b>	
随時	第 1 回 健康診断	B 型利用者
1 月 18 日	第 2 回 健康診断	職員・利用者
	<b>【避難訓練】</b>	
5 月 27 日	自然災害総合訓練(通報・避難・消火・救助)	職員・利用者
10 月 20 日	自然災害・火災避難訓練	職員・利用者
	<b>【福祉サービス事業】</b>	
随時	三者面談	利用者・保護者
随時	個人面談	利用者
随時	家庭訪問	利用者
	<b>【研修・出張】</b>	
4 月 5 日	国庫補助協議申請についての陳情	3 日間(2 名)
5 月 17 日	新工場建設にかかる北海道保健福祉部長との打合せ	1 日間(1 名)
6 月 1 日	危険物取扱者保安講習	1 日間(1 名)
5 月 26 日	国庫補助協議申請についての陳情	3 日間(1 名)
7 月 5 日	危険物取扱者保安講習	1 日間(1 名)
11 月 1 日	第 1 回北海道社会就労センター施設長研修会	1 日間(1 名)

3 月 9 日	第2回北海道社会就労センター施設長研修会	1 日間(1 名)
---------	----------------------	-----------

注記      令和 4 年度事業報告には、社会福祉法施行規則第 2 条の 25 第 3 項に規定する付属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。

## 令和4年度 ケアハウスあしべつ事業報告書

### 1 総括

ケアハウスあしべつは、平成18年4月に運営を開始してから17年が経過しました。当施設は、芦別市における高齢化の進行により単身生活に不安を抱える方々が増加している状況にあつて、高齢者の住まいとして市民のニーズに応えるべく、定員50人で事業展開しています。また、定員のうち30人については介護保険事業である特定施設入居者生活介護（介護予防を含む。）の指定を受け、入浴、排せつ、食事等の介護その他日常生活上のお世話を行い、介護を要する入居者様への対応を行っています。

処遇面については、当施設の掲げる『私たちは、入居者様一人ひとりを敬愛し、笑顔・思いやり・親切・丁寧・誠実・公平の姿勢で取り組み、信頼される施設を目指します。』の基本理念のもと、入居者様やご家族が安心できる施設づくりを目指し、入居者様のライフスタイルを尊重して健康で安全なゆとりある生活ができるよう、個々のニーズに合った良質なサービスの提供に努めました。

経営面では、特定施設入居者生活介護（介護予防を含む。）で収入を大きく伸ばした一方で、新たに職員を雇い入れたことによる人件費の増加、物価高騰や原油価格の高止まり、電気料金の値上げ、各種委託料のアップ等による経費の大幅な増加により減益となりましたが、最終的に300万円を超える利益を残すことができ、来期以降の更なる経費増加への最低限の備えができました。空室対策については、市内の高齢者施設が軒並み待機者を減らす厳しい状況にあるなか、各施設との横の繋がりの強化に力を入れたほか、医療機関や居宅介護支援事業所と連携を深め、さらには市外関係機関への施設PRを行い、入居希望者の掘り起こしを進めました。

新型コロナウイルス関連では、外出や面会の制限を続けるなかで流行の波を的確に捉えることができず、緩和の時期を逸し1年を通して制限を続けることとなりました。また施設内での活動や行事を一部再開できたものの、外部ボランティアを招いた大きなイベントの再開には至らず、ケアハウスならではの家族との時を選ばぬ触れ合いや地域との交流による『悦び、ゆしみ、癒し、生きがいの提供』という施設本来の役割は今期もまた十分に果たすことができませんでした。しかしながら、厳しい対応への関係各位のご理解ご協力と施設での可能な限りの感染対策により一人の陽性者も出すことなく1年を終えることができました。

### 2 施設利用状況（ケアハウス全体/定員50人）

#### ① 月別入居者数（月末在籍入居者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	11	11	10	10	10	11	12	14	14	12	13	13	11.7
女性	38	38	38	35	36	36	35	35	35	35	35	33	35.8
合計	49	49	48	45	46	47	47	49	49	47	48	46	47.5

【平均入居者数】 47.5人（居室稼働率95.0%）

(2) 月別入居・退居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	1	0	6
退居	0	0	1	3	0	0	1	0	0	2	0	2	9

(3) 入居者年齢別内訳（令和5年3月31日現在）

	～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳～	合計
男性	0	0	2	3	5	2	1	13
女性	0	0	0	4	15	8	6	33
合計	0	0	2	7	20	10	7	46
構成比	0.0%	0.0%	4.4%	15.2%	43.5%	21.7%	15.2%	100.0%

※平均年齢 88.3 歳 最高年齢 102 歳（女性） 最低年齢 78 歳（男性）

### 3 施設利用状況（特定施設入居者生活介護事業再掲/利用定員 30 人）

(1) 月別利用者数（月末在籍利用者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	7	8	7	7	7	8	9	10	10	8	9	9	8.2
女性	22	22	22	19	20	20	19	19	19	19	19	17	19.8
合計	29	30	29	26	27	28	28	29	29	27	28	26	28.0

【平均利用者数】 28.0 人（利用率 93.3%）

(2) 要介護度別内訳（令和5年3月31日現在）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	2	0	4	2	1	0	0	9
女性	0	1	8	3	2	2	1	17
合計	2	1	12	5	3	2	1	26
構成比	7.7%	3.8%	46.2%	19.2%	11.6%	7.7%	3.8%	100.0%

【平均要介護度】 1.7 ※要支援 1 及び要支援 2 は 0.375 として計算

### 4 経営状況

一般のケアハウス居室については、前期をやや下回ったものの 97%を超える高い利用率を維持し、特定施設入居生活介護居室についても同じく利用率が前期をやや下回ったものの 91%と比較的堅調に推移し、かつ要介護度の重い利用者が多かったことによって前期よりも収入が大きく増加しました。一方で、前期に確保が難航した専門職（ケアマネジャー）の確保に成功したことによって人件費が大きく膨らみ、さらに最低賃金の改定による各種委託料の増加や燃料価格の高騰による影響等も重なって事業費及び事務費も増加した結果、前期よりも利益を減らす結果となりました。

収入については、二つの大きな柱のうち家賃や食費等に相当する利用料及び入居者数によって得られる北海道補助金等を計上する『老人福祉事業収入』が前期比 496,044 円増、

特定施設入居者生活介護利用者から徴収する介護サービス利用料及び介護報酬を計上する『介護保険事業収入』が同 3,609,133 円増、合わせて同 4,105,177 円増などにより合計 141,421,449 円となりました。

支出については、三つの大きな柱のうち『人件費支出』が専門職を雇用したこと等により前期比 9,364,928 円の大幅な増、『事業費支出』は電気料金の値上げや原油価格の高止まりの影響により同 677,349 円増、『事務費支出』が最低賃金の増額による委託料の増加や新規委託業務の実施等により同 1,314,244 円増、合わせて同 11,356,521 円増などにより合計 127,553,050 円となりました。

以上により、本業部分の損益を示す『事業活動資金収支差額』が 13,868,399 円となり、ここから設備資金借入金償還 10,310,000 円のほか固定資産取得費及び法人本部繰入金を差し引いてもなお『当期資金収支差額』3,075,399 円を残すことができました。

## 5 主な行事

4 月	茶話会（創立 16 周年記念）
5 月	おやつ会
9 月	敬老会
12 月	クリスマス会
1 月	新年会
2 月	節分
3 月	ひな祭り

\*その他、毎月誕生会を実施した。

## 6 職員研修状況

対 象 職 員	研 修 名	主 催 者
＜外部研修＞		
施 設 長	・介護労働者雇用管理責任者講習（札幌市） ・BCP 策定研修（配信）	介護労働安定センター 北海道社会福祉協議会
生 活 相 談 員	・相談援助職員専門研修（配信）	〃
栄 養 士	・栄養士専門研修（配信）	〃
介 護 職 員	・リスクマネジメント研修（配信） ・介護職員専門研修Ⅰ（配信） ・介護職員専門研修Ⅱ（配信） ・福祉職場における感染症対策研修（配信） ・医療の基礎知識講座（配信） ・認知症ケア特別研修（配信） ・認知症ケア（食事ケア）特別研修（配信） ・北海道高齢者虐待防止推進研修（配信）	〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
＜内部研修＞		
全 職 員	・身体拘束廃止研修（2 回）	

介 護 職 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント研修</li> <li>・感染性胃腸炎感染拡大防止演習</li> <li>・救急対応、救急蘇生訓練</li> </ul>	
---------	--	--

注記 令和4年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する付属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していません。